

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200056		
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町中津隈3864番地		
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月14日	外部評価確定日	平成24年3月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事実施の際は、近隣の事業所(他のグループホーム・宅老所等)や地域の方にも呼びかけ、地域との交流を大切にしている。また、年1回のみやき町の文化祭に利用者の作品を出品したり、夏休みは、地元の子供クラブがホーム内の敷地でラジオ体操を実施し、(事前に除草奉仕)グループホームの啓蒙に努めている。また、リハビリの一環としてハンドベルを行い、近隣の事業所を訪問し、利用者間の交流を図っている。また、四季の行事により、利用者様が肌で季節感を感じていただく様な行事・春(花見・屋外食事・ピクニック・外食の日)夏(ビアホール・スイカ割・ソーメン流し・カキ氷)秋(日帰り旅行・ピクニック・バーベキュー)冬(餅つき・干し柿作り)等の行事を行っている。また、保育園児や高校生が定期的に慰問を行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「和が家」は田畑が広がる自然の中、お寺やお宮、住宅が立ち並び地域密着型としての暮らしに適した環境である。介護福祉施設や、ケアハウスの他、多種の居宅サービス事業も運営している社会福祉法人が、地域のニーズに対応する形で開設し、7年半が経過する。地域との関係を大切に考え、子供たちのラジオ体操の場としてホームの庭を提供し、入居者との交流を深めたり、利用者職員で練習しているハンドベルの発表の場として他のグループホームを訪問する等、日常から認知症介護の啓発に繋がる活動に積極的である。理事長が目指す「常に人のまごころに寄り添いながら皆様の笑顔を何よりの喜びとする」という考えを実践するため職員一同が頑張っているホームである。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、出勤スタッフ全員で法人理念、グループホーム理念を唱和し、実践につなげるように再確認している。	毎朝、出勤スタッフ全員で法人理念、グループホーム理念を唱和し、実践につなげるように再確認している。	法人理念の他、職員全員でつくり上げたホーム理念を実践に繋げるために、ミーティングで唱和し、また、話し合いの中で振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住宅周辺の散歩や子供クラブとの交流、夏休みには地域の方や子供クラブのみなさんと、ラジオ体操を実施している。	地域住宅周辺の散歩や子供クラブとの交流、夏休みには地域の方や子供クラブのみなさんと、ラジオ体操を実施している。	地域との交流は、ホームが一番大切に考えていることである。地域の方の踊りや高校生の吹奏楽団のボランティア訪問時には地域老人会にも呼びかけている。又、入居者の絵手紙等の作品を地域の文化祭へ出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の行事に地域の方々の参加を促したり、地域の文化祭に作品を出品等を通して、認知症の人の理解や支援方法を発するよう努めている。	ホーム内の行事に地域の方々の参加を促したり、地域の文化祭に作品を出品等を通して、認知症の人の理解や支援方法を発するよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での行事等の報告や実際にホームで提供している食事を摂取していただくことにより、感想意見をサービスに反映できるように努めている。	ホーム内での行事等の報告や実際にホームで提供している食事を摂取していただくことにより、感想意見をサービスに反映できるように努めている。	運営推進会議のメンバーは、入居者や家族、地域住民代表、行政担当者等で構成されており、ホームの理解を得るよう努めているが、定期的な開催までには至っていない。	今後は、会議が定期的開催され、課題や改善に向けた取り組みについての話し合いがなされ、更にサービスの向上に繋がるよう努められることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の研修会に参加し情報交換に努めたり、管理者が定期的に事業所の事情やサービスの取り組み内容等を伝えている。	市町村主催の研修会に参加し情報交換に努めたり、管理者が定期的に事業所の事情やサービスの取り組み内容等を伝えている。	行政が主催する研修会に参加したり、町の地域ケア会議に出席し、ホームの情報を伝えている。又、空き状況を伝える等協力を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的にスタッフに話し、出来るだけ利用者に対しては付き添い、思うよう行動してもらっている。また、玄関の施錠は夜間早朝のみである。	身体拘束について、定期的にスタッフに話し、出来るだけ利用者に対しては付き添い、思うよう行動してもらっている。また、玄関の施錠は夜間早朝のみである。	ホームでの話し合いの際、拘束をしない介護についての検討をし、身体拘束廃止についての指針も作成し、実践している。玄関の鍵も夜間のみとし、ケアの工夫で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待について、スタッフに話を行っている。	身体拘束や虐待について、スタッフに話を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修に参加し、スタッフに伝達するように計画している。	今後、外部研修に参加し、スタッフに伝達するように計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、きちんと説明を行い、また、面会時にも家族へ確認を行っている。利用者にもその都度話をしている。	契約時に、きちんと説明を行い、また、面会時にも家族へ確認を行っている。利用者にもその都度話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置、家族面会時に要望等を聞くようにしている。	意見箱を玄関に設置、家族面会時に要望等を聞くようにしている。	日頃より家族との関係の構築に努めており、問いかけも積極的にしている。ケアに関する意見を聞くことを心がけて、意向に沿うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画は、スタッフがそれぞれ記入、また、ミーティングを行い意見や提案を取り入れている。	事業計画は、スタッフがそれぞれ記入、また、ミーティングを行い意見や提案を取り入れている。	毎月の目標を職員で話し合い、決めている。又、事業計画に対する意見を取り入れたり、ミーティングでは職員の提案内容等を検討し、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課にて評価を行い、スタッフの意欲が出るよう、業務に反映できるような、環境作りに努めている。	年2回人事考課にて評価を行い、スタッフの意欲が出るよう、業務に反映できるような、環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園外研修は、スタッフの経験年数を考慮し、出来るだけ参加させている。	園外研修は、スタッフの経験年数を考慮し、出来るだけ参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖広域内やグループホーム主催の研修会に参加し、交流の場や意見を聞く等、サービスの質の向上に努めている。	鳥栖広域内やグループホーム主催の研修会に参加し、交流の場や意見を聞く等、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度、傾聴して安心と信頼に向けた関係作りに努めている。	その都度、傾聴して安心と信頼に向けた関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の調査や契約時に、家族や本人に確認し計画を立てるようにしている。	事前の調査や契約時に、家族や本人に確認し計画を立てるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意見を聞いて、その時に何が必要か見極め対応している。	利用者、家族の意見を聞いて、その時に何が必要か見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に取り組み、楽しみ・喜び・悩みごとを聞きながら、人間関係を築くよう努めている。	何事も一緒に取り組み、楽しみ・喜び・悩みごとを聞きながら、人間関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者の変化や現状については、御家族へ報告し、時には御家族側の現状や悩み等を傾聴し、共に本人を支えていくように努めている。	常に利用者の変化や現状については、御家族へ報告し、時には御家族側の現状や悩み等を傾聴し、共に本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしていた物をホームへ持ち込んでもらったり、知人と連絡を取り合う事ができる、環境作りに努めている。	大切にしていた物をホームへ持ち込んでもらったり、知人と連絡を取り合う事ができる、環境作りに努めている。	入居前の知人や友人の訪問を心待ちにされたり、手紙のやり取りも支援している。又、馴染みの美容院へ家族の協力で行っていただくなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・レクリエーション等を通じて、交流を深めていただけるように努めている。	行事・レクリエーション等を通じて、交流を深めていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時も訪問したり電話連絡により、家族へ連絡し相談や支援に努めている。	退去時も訪問したり電話連絡により、家族へ連絡し相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前に家族・本人に説明し情報を収集し支援している。	入所前に家族・本人に説明し情報を収集し支援している。	日常のケアをする中で、本人の言葉や表情などで把握したことを記録し、職員が共有している。又、家族から生活歴や習慣を聞き、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族・本人に説明し情報を収集し支援している。また、契約時にも再度確認を行い支援している。	入所前に家族・本人に説明し情報を収集し支援している。また、契約時にも再度確認を行い支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や出来る事出来ない事を、スタッフが把握し毎日支援を行っている。	利用者の身体状況や出来る事出来ない事を、スタッフが把握し毎日支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい生活をホームでも継続していただけるように、利用者・家族等にも確認し、介護計画を作成している。	その人らしい生活をホームでも継続していただけるように、利用者・家族等にも確認し、介護計画を作成している。	家族の面会時に意見を聞き、医師からは必要に応じて情報を得るなどして、担当者会議を開催し、本人の意向に沿った計画の作成に努めている。定期的にモニタリングや評価がされ、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表にこまめに記録し、毎日のミーティングや連絡帳に記入し、情報を共有し介護計画に生かしている。	支援経過表にこまめに記録し、毎日のミーティングや連絡帳に記入し、情報を共有し介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく生活して頂くように、日々変化していく利用者に合わせて、介護支援している。	その人らしく生活して頂くように、日々変化していく利用者に合わせて、介護支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時天候や利用者の身体状況を確認しながら、ホーム周辺の散歩や地域の方の協力を得ながら、慰問を受け入れている。	随時天候や利用者の身体状況を確認しながら、ホーム周辺の散歩や地域の方の協力を得ながら、慰問を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、主治医を決めてもらっている。	本人や家族の希望により、主治医を決めてもらっている。	本人や家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診を支援している。協力病院からの往診や、必要に応じ、受診に付き添っている。定期受診時には、記録した情報を医療機関へ提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援経過記録やミーティング等で情報を共有し、受診時や看護士が出動の際に伝達している。	支援経過記録やミーティング等で情報を共有し、受診時や看護士が出動の際に伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やソーシャルワーカーと連絡をとって、退院できるように努めている。	主治医やソーシャルワーカーと連絡をとって、退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族や本人の意志や希望を確認し、医療スタッフ介護スタッフ、その他の社会資源で御本人に対するケアの方針を検討している。	御家族や本人の意志や希望を確認し、医療スタッフ介護スタッフ、その他の社会資源で御本人に対するケアの方針を検討している。	看取りに関する指針を作成し、契約時に同意を得ている。重度化した場合は、段階的に家族と話し合い、ホームで出来ることを説明し、意向を確認している。医療機関の協力を得て、看取り介護をした経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っているが、今後も計画実践していく。	定期的に内部研修を行っているが、今後も計画実践していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は、年2回行っておりその際、地域の方が数名参加をされている。	防火訓練は、年2回行っておりその際、地域の方が数名参加をされている。	災害対策マニュアルに基づき、夜間想定も含め地域住民の参加も得て、定期的に避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	毎朝、出勤スタッフ全員で法人理念、グループホーム理念を唱和し、実践につなげるように再確認している。また、対応時は十分に気配りスタッフ同士気をつけ、御利用者の人格を尊重してしている。	毎朝、出勤スタッフ全員で法人理念、グループホーム理念を唱和し、実践につなげるように再確認している。また、対応時は十分に気配りスタッフ同士気をつけ、御利用者の人格を尊重してしている。	日頃より入居者を尊重し、大切に介護の心がけており、理念の実践にも努めている。介護中の職員の仕事づかいを個別に指導することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人へ確認や筆談等で確認し、御本人の思い通りに出来るようにしている。	本人へ確認や筆談等で確認し、御本人の思い通りに出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合ったレクリエーションを考え(ボール遊び・頭の体操・トランプ・リズム体操・ボーリング等)無理に勧めるのではなく、本人へ確認しながら支援している。	利用者に合ったレクリエーションを考え(ボール遊び・頭の体操・トランプ・リズム体操・ボーリング等)無理に勧めるのではなく、本人へ確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に起床時外出時等洋服を選んでもらったり、口紅やチークなど、また、男性も毎日ひげそりを行っている。	利用者に起床時外出時等洋服を選んでもらったり、口紅やチークなど、また、男性も毎日ひげそりを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日に、好きな献立を事前に確認し配膳している。また、利用者の能力に応じて皮むきや盛り付け等を依頼している。	利用者の誕生日に、好きな献立を事前に確認し配膳している。また、利用者の能力に応じて皮むきや盛り付け等を依頼している。	入居者の好みに対応した献立を作成し、食事が楽しみなものとなるよう努めている。疾病に応じた献立を管理栄養士に相談することもある。買い物や下ごしらえ等手伝ってもらい、職員も一緒に食事をしている。又、定期的な外食日も入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や毎食の食事量をチェックしたり、主治医のアドバイスを参考に摂取されるように努めている。	水分や毎食の食事量をチェックしたり、主治医のアドバイスを参考に摂取されるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ誘導し利用者の状況を確認しながら、必要に応じて一部・全介助を行っている。	毎食後、声かけ誘導し利用者の状況を確認しながら、必要に応じて一部・全介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄状況をチェックし、時間を見ながら声かけ誘導し、日中はほとんどトイレを使用している。	利用者の排泄状況をチェックし、時間を見ながら声かけ誘導し、日中はほとんどトイレを使用している。	排泄チェックの活用により、個別のケアをすることでオムツを使用せず、トイレでの排泄ができるようになった事例もある。そのような経験から、職員が環境の大切さを理解し、自立に向けた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	曜日を決めて、ヨーグルトやヤクルト・牛乳等を準備し、便秘の予防に努めている。また、毎食前、嚥下体操・体操を行っている。	曜日を決めて、ヨーグルトやヤクルト・牛乳等を準備し、便秘の予防に努めている。また、毎食前、嚥下体操・体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の入浴日を決めているが、体調不良や都合により、その曜日以外の日でも実施している。	利用者の入浴日を決めているが、体調不良や都合により、その曜日以外の日でも実施している。	基本的には入浴日を決めているが、希望により毎日でも入浴することができる。入浴を嫌がられる入居者については、検討し、時間を置いたり、気分を見ながらケアの工夫により支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に安心して休んでいただくように、そのつど対応している。(畳やソファ・スタッフが添い寝したり、利用者が安楽な姿勢で休めるように等)	利用者に安心して休んでいただくように、そのつど対応している。(畳やソファ・スタッフが添い寝したり、利用者が安楽な姿勢で休めるように等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	北南ユニットに毎に内服薬の効能書をスタッフ室に準備、必要に応じて確認している。	北南ユニットに毎に内服薬の効能書をスタッフ室に準備、必要に応じて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や職歴等を確認し、能力や体調を考慮し役割(手伝い)により気分転換等の支援を行っている。	利用者の生活歴や職歴等を確認し、能力や体調を考慮し役割(手伝い)により気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時は、家族へ付き添いを依頼している。行けない場合は、行事として計画したりして支援している。	外出時は、家族へ付き添いを依頼している。行けない場合は、行事として計画したりして支援している。	レストランでの外食や、季節ごとのドライブへ出かけるなど、希望に応じて外出の支援をしている。日常的な散歩でお寺まで出かけた、買い物や受診も支援している。困難な場合は家族の協力をお願いすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(北)	自己評価／ユニットB(南)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食の日や買い物の日、本人の預かり金より支払ってもらっている。	外食の日や買い物の日、本人の預かり金より支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等より、電話に出ることが出来ない方は、コードレス電話を利用してもらっている。	家族や友人等より、電話に出ることが出来ない方は、コードレス電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口やサンデッキにプランターに花を植えている。また、ホールテーブルの上に。花を生けている。また、食事中は、音楽を流している。	玄関入り口やサンデッキにプランターに花を植えている。また、ホールテーブルの上に。花を生けている。また、食事中は、音楽を流している。	共用のホールは広々として明るく、ソファや椅子で思いおもいにゆったりと過ごされている。家具や畳の間の雰囲気は家庭的である。ウッドデッキからはいつでも外の空気に触れることができ、季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファやサンデッキに置いているベンチで、利用者同士話をされたり屋外の空気を吸ったり、植木等を見て過ごされている利用者もある。	ホール内のソファやサンデッキに置いているベンチで、利用者同士話をされたり屋外の空気を吸ったり、植木等を見て過ごされている利用者もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学时や契約時に、出来るだけ自宅で使用されていた、タンスや湯のみ、箸等を持参していただくように依頼している。	見学时や契約時に、出来るだけ自宅で使用されていた、タンスや湯のみ、箸等を持参していただくように依頼している。	職員からは馴染みの品や好みのものを持参して頂くよう働きかけている。筆筒や懐かしい写真等を飾り、安心できる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前に提灯を下げたり、浴室前に暖簾、また、自室がわからない利用者には、大きく名前を掲示したり、自室前に造花を目印に置いたり、利用者様がわかるように配慮している。	トイレの前に提灯を下げたり、浴室前に暖簾、また、自室がわからない利用者には、大きく名前を掲示したり、自室前に造花を目印に置いたり、利用者様がわかるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。  (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。  (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない